

令和2年度第3回新発田市文化財保存活用地域計画策定協議会 議事録

日時 令和3年3月29日(月) 13:30～15:30

会場 新発田市生涯学習センター 多目的ホール

出席委員

伊野義博会長、佐藤榮征副会長、佐藤美由紀委員、坂井秀弥委員

宮崎芳春委員、大沼長栄委員、時田一雄委員、佐藤隆男委員、片桐隆委員

高澤誠太郎委員、高澤健爾委員

事務局 文化行政課

国際文化財(株)

議事の経過及び内容

1. 開会

事務局より、委員13名中11名出席により、会議成立の案内。

傍聴者7名の参席の報告。事前配布資料の説明。

工藤教育長より挨拶。

「本日は公私ともにお忙しいところお集りいただきまして、感謝申し上げます。本来ならば早い時期に委員の皆様へ敬意を表し、御礼申し上げるところでしたが、1回目、2回目と他の業務と重なりまして、大変失礼致しました。

本日は気候もよろしく、外ヶ輪小学校の桜も咲いております。大変暖かい日になりましたが、コロナ禍の影響は強く、そのような中お集りいただきまして、改めて感謝申し上げます。

皆様もご存知の通り、文化財保存活用地域計画は、文化財保護法の改正に伴い、位置付けられた計画であります。都道府県が策定する文化財保存活用大綱を勘案し、各市町村が文化財の保存・活用に関する総合的な計画を策定し、文化庁の認定を受けることができるようになりました。

これにより、未指定の文化財や消滅の危機にある文化財を総合的に把握しまして、地域・社会全体で多様な文化財を次世代へ継承していくための中長期的な保存と活用のための、具体的な計画を策定することができます。

新発田市におきましても、新潟県が昨年度策定致しました大綱を勘案しながら、県内で最初の策定に取り組んでおります。新発田市では、ご存知の通り新発田城をはじめ、各種

類の指定文化財がありますが、地域計画の策定にあたりましては、未指定の文化財にも目を向け、多様な文化財を次世代へと継承していくことが必要と考えております。

どうぞ、より良い計画となりますよう、それぞれのご立場から忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。

公私に渡り大変お忙しい中、委員をお引き受けいただきまして、改めて感謝申し上げます。」

2. 会長挨拶

「皆様のご協力のお陰で、計画が着実に進行していることを嬉しく思います。次第に議題が記載されていますが、幾つかポイントがあるように思います。

一つ目は、協議事項の①にあります、スケジュールについてです。3年間充実した内容の物ができるようなスケジュールについて考えていくことが、ポイントと考えております。

二つ目は未指定の文化財についてです。日々の生活の中に文化財があるということ、それについての市民の方々の気持ちの掘り起こしと、本計画との繋がりをどれだけできるかが大きなポイントではないかと思っております。

三つ目は、配布資料5で明示されておりますが、従来のように1章、2章と進んでいくのではなく、全体を見渡した形で計画を進めていくことが重要と感じております。新発田の文化財をどのように見ていくかという、見方の示し方かと思っておりますので、この点についてもご検討いただき、資料5を固めていくと、大きく前進できるのではないかと思います。」

工藤教育長退席。

以後、会長が議事進行。

3 報告事項

事務局より(1)(2)の説明。

(1) 地域の文化財に係るアンケートの結果について

(2) 庁内ワーキンググループについて

報告事項については、二点ある。内容は、前回の協議会でもお話しした新型コロナウイルス感染症の影響がありワークショップが実施できない中、どのように地域の皆様方の声を把握できるか試み、各自治会長等に地域の文化財について、ご紹介をさせていただいた。

町内会の数は約330であるが、そのうち約40の自治会長よりご回答をいただいた。内容の詳細については、まだまとめ切れていないが、速報的なものとして、皆様にご報告申

し上げる。

ワークショップについては、また後ほどご報告申し上げます。

一点訂正としては、アンケートの12番の文化財の種類として、「結界石」と記載しているが、「境界石」に訂正をお願いします。

二点目としては、庁内ワーキンググループについてである。本計画策定については、文化行政課あるいは教育委員会だけの計画ではなく、市全体の計画と考えており、市長部局との連携が不可欠であり、連絡・協議を重ねながら進めていきたいと考えている。

こうした中で今年度は1月に歴史図書館・みらい創造課・市民まちづくり支援課・建築課・観光振興課・商工振興課といった各課と連携をとり、意見をもらった。その段階では、まだ本文の第1章までしかできておらず、あまり深い議論にはならなかったが、今後ともこういった形で庁内連携を図り計画策定に向けて取り組んでいきたいと考えている。

上記に関する意見、質疑応答（委員の質疑、意見は「●」で、回答は「→」で示す。）

● 副会長 地域の文化財に関するアンケートを実施したとのことであり、試み自体は良いものと思うが、回答者が自分の町内のことを知らないで回答している場合があると私は思う。まだまだ重要なものが落ちているからといって、自治会長・町内会長に指図をするという訳にはいかないと思うので、これをそのまま使用しない方が良いと考える。参考資料として用い、更にその裏に隠れているものがあると踏まえた上で扱わなければ前に進まないという恐れがある。

→事務局側としても、現段階で把握したものをそのままご提示しており、精査したものについては後ほどお示しできればと思っている。いただいたご意見について加味した上で検討させていただきたい。

● このアンケートについては、これで全て出尽くしたということか。

→このアンケート調査は、一応の締切りとして今年の1月半ばを設定した。ここには記載していないが、その後にもう一度町内会が跨るものにつきましては、自治会長を束ねる立場の方のもとに照会をかけ、提出期限としては2月半ばと設定させてもらった。ただ、これはあくまで一応定めた期限で、ここまでに回答が無かったものは入れないというわけではない。情報を頂ければ随時追加していければと考えている。

● 会長 アンケートについては、協議事項②のワークショップと深く関連すると思うので、新たにご意見があったら②ワークショップについての説明を聞いた上で、ご議論いただければと思う。

4 協議事項

(1) 今後のスケジュール(案)について

配布資料を確認いただきたい。第1回協議会で示したスケジュール案と協議会で頂戴したご意見を踏まえて新たに作成したスケジュール案である。

前回の協議会で、順次第1章から進めていくのではなく、まずはポイントとなる箇所から協議を重ねていった方が良いのではないかというご意見や、また、少し期間を前倒しして進めていくべきではないか、というご意見を踏まえて、事務局側で新たなスケジュールを作成した。

当初のスケジュールでは、順次頭から作成していくというものであったが、中心となる章を重点的に前に倒して進めていく方が良いのではないかと、そのようなスケジュール設計になっている。

色の濃い部分が、委員の皆さまに重点的に協議いただきたい内容となっている。なお、これについては現状考えているもので、今後の協議の進行を加味致し、柔軟に対応していきたいと考えている。

また、庁内ワーキンググループについては、令和2年度の第1回目ということで、今年1月に実施したところである。令和3年度については進行状況をみながら、ある程度の区切りの良いところで、意見をもらう場を2回程度設けたいと考えている。

上記に関する意見、質疑応答（委員の質疑、意見は「●」で、回答は「→」で示す。）

● 庁内ワーキンググループは年度で2回実施したいとのことであるが、市民ワークショップも年度に2回と配布資料中に記載されている。様々な事情があり令和2年度に実施できていない状況で、来年度の予定についても資料に矢印が一本引いてあり、その中で2回実施するという記載に留まっている。コロナの影響がある中で、絶対に実施するとは言い切れないと思う。

例えば、コロナの情勢が現状くらいと想定した場合、何月くらいにこんなやり方でやってみたいと考えている、といったことをご教示いただきたい。

また、資料の自治会長の方々へのアンケートについても、表で見てもどのような分布になっているのかわかり難く思う。回答にムラがあるようなら、未回答の地域の方達からご意見を吸い上げるようなやり方など、現時点でどのように考えているか。

→現状、新発田市では、実際にワークショップを開催している市の行政に関するテーマがある。現時点のようなコロナの状況であれば、会場を広めに確保することや、人数制限を設定する必要があると思うが、実施できると考えている。

● 会長 今のご質問については、スケジュール案を踏まえた上で、コロナ禍の中でも年2回程度のワークショップを確実に実施できるかという趣旨かと思う。現段階ではいつ頃

計画しているのか、どのような方法であるのか回答いただきたい。

→年度末が差し迫った時期でワークショップを行うことは想定していない。概ねではあるが、春から秋にかけて2回を想定している。また、非常に大勢の方にお集りいただくのは、新型コロナの感染対策上難しいと考えている。

● 春から秋というと長期的なものであることに加え、また回数も2回ということで心配している。また、新潟県でもコロナ禍の中で開催を諦めた行事が多くある。それでも、工夫を凝らして実施していた。それには早期に計画を練り上げていく必要性があると思う。開催間近で結局実施することができなかったというケースも出てくるかと思うが、春になってから春にやろうでは遅いかと思う。具体的な時期のポイントを早めに決めていくのがよろしいかと思う。

→貴重なご意見をいただきありがたい。おっしゃるとおり思い立ってすぐに実施できるものとは思っていないので、早めに具体的な時期について決定していきたいと考えている。

● 会長 実際に参加する人数も大事かと思うが、それ以前に全市民がこのことをどれだけ知るかということが大事ではないか。市がどのようなことを考えているか、何のためにやるのか、「自分は行けないが、行った人にどうだったのか後で聞いてみよう。」といった、そういった流れを計算した上での計画作りのお願いだったのかと思う。

● 副会長 言葉のことであるが、「ワークショップ」というものが具体的にどういったことをやるのか今一つ理解できていない。コロナ禍の中、人数を集めることは大変かと思うが、先ほど会長もおっしゃられたが、地元の文化財等に知見を持っている方に参加していただければ良いかと思う。また、ただ実施するだけという漠然としたものにならないようお願いしたい。

● 会長 市内のワーキンググループについても、大変重要なご意見かと思う。その中で、どういった意見が出たかについても、協議会の方で共有いただければと思う。特に課題については、私達には大変参考になるかと思う。

(2) ワークショップについて

現在想定しているワークショップについてご説明する。令和2年度のワークショップについては、コロナ禍の情勢の中、実施できなかったが、来年度は是非実施したいと考えている。

配布資料でワークショップ開催に関する考えをお示している。今年度実施致した、各町

内会長等への地域の文化財に関するアンケートを40程度いただいているところである。裏を返せば大部分の地域からはご回答いただけていないのが現状である。しかし、仮に回答いただかなかったとしても、我が地域の中で回答できる文化財があるのかといった話し合いを、地域の中で行っていただいたという報告もある。アンケートのご回答はなかった地域でも、それぞれの地域で地域の文化財というものを考えていただいたということでは意義あるものであったと考えている。

しかし、顔を合わせ、対面でご意見をいただいたという訳ではないので、ワークショップは必要であると考えている。その意味から令和3年度に2回を想定して計画しているところである。

具体的にワークショップで何を行うかについては、ご出席いただいた方々から「あなたの考える新発田らしさ」についてご意見をいただければと想定している。新発田らしさということであれば、意見をいただけると思っている。先ほどご指摘いただいた点も踏まえ、早期に取り掛かりたいと考えている。

上記に関する意見、質疑応答（委員の質疑、意見は「●」で、回答は「→」で示す。）

● 本日追加いただいた資料の、文化庁との話し合いの中で、文化財の把握調査についてという項目がある。その中で、「調査の完了している分野と区域、未把握の分野と区域を示すことで、今後の調査の方針に反映できるのではないか。」という一文が記載されている。

それを踏まえた上で、「こんな意見があがってきました。」という回答をお示してもらっている。反対にあがってきていない地域もあるということであったが、地域名を見ても新発田市の中でバランスよくご回答いただいているのか把握がしにくい。もし、地域的に偏りがあるのなら、このことを踏まえてワークショップで補完するのが良いかと思う。

この地域からこんなものがあがっているが、そういったものは他の地域でもあるという事例も発生するかもしれないが、そういうものがあればこまめに調査を掛けていくなどの工夫が必要かを感じる。

→頂戴したご意見については、その通りと思っている。これからオール新発田で文化財の保存・活用に取り組んでいただきたいところである。地域が偏るということは望ましくなく、バランスよくご意見を頂戴したいと考えている。

その意味においても、アンケートに回答いただいた地域、回答いただけなかった地域がある中で、ワークショップでその均衡を考えながら、おいでいただく地域の設定や、参加人数を考えていきたいと思っている。

● 会長 本日、何度かご意見をいただいているかと思うが、アンケート結果を踏まえて地域的な偏りなどは、事務局の中ではあると感じているか。例えば海側や、加治川周辺で

あるとか、そういった印象があれば示してもらいたい。

→やはり濃淡というものはある。提出いただけなかった地域に無理にお願いをするということもできないが、やはり薄い濃いという地域差があることは感じている。

● 各町内からアンケートの回答をいただいているが、例えば清水園の中でも未指定の文化財は幾つか存在している。その他にも、大倉喜八郎が李王朝から頂いた東屋が過去には新発田に在った。それは昭和年間に解体されているが、金塚の旧小学校校舎に保管されているという話しも聞いたことがある。或いは新発田市が武家屋敷の部材を多く保存している。そういったものについては、今計画には反映できないものか。

→先ほどからお話しに出ているが、事務局の方では「未把握のもの把握」がまだ進んでいない状況である。そのような現状でどうすれば把握していくことができるのか、再度検討させていただきたい。

事務局側としては、いつでも文化財に関する情報のご提供をいただければストックしていきたいと思っている。今お話しいただいたように、それぞれ見えない中での文化財がある。その把握の方法についても、再度研究・検討していきたいと考えている。

● 文化財保護法第2条が自治会長方に示されたうえ、地域の中にある文化財ということになると、恐らく相当レベルの高いもの以外は受け付けていない、という印象を受ける自治会長さんも出てくるのではないかと思う。どのレベルでアンケートを取っているのかわからないが、法を以て示されたものでは高いレベルのものしか出せないのでは、と思われたと感じる。

更に、回答内容を見ると、思いの丈が違うような印象を受ける。だからと言って、何でも出してもらおうということになれば、收拾がつかなくなると思うし、出してもらった以上は十分な配慮が必要になると考える。

聴き方や、レベルの問題、現段階での回答状況を示していけば、膨大な数が出てくる恐れもあるが、それらに対してどういった扱いをしていくのかといった方針を示した上で、ワークショップで俎上に乗せなければ、色々と錯綜した状態で議論を行わなければならない事態に陥る危険性があるのではないかと思う。

→この調査をする際に、文化財保護法第2条を示したことについては、口語調で碎いた言い方であると、どこまでを文化財として扱うのか難しい問題があり、このような形を取らせていただいた。

記入例としては、比較的多くの地域にあると考えられるものを取り上げ、なるべく記入しやすいものを選んだ。しかし、取っ付き難い部分があったかを感じている。

また、どこまでが文化財かといった論議もあるかと思う。協議事項として、第3、第4

章にて文化財の捉え方についてご協議いただく場を考えている。そういったことを踏まえて、文化財のアウトラインのような形でお示しできればと考えている。

● 旧紫雲寺地区の自治会長等から地域の文化財の回答が1件も出ていない。何か特別な理由があるか。

→何故出てきていないのか把握できていないのが実情である。

● 会長 地域の文化財の照会では、色々と課題が出てきているかと思う。広範な地域に呼びかけながら、上がってくるような形を取っていると感じる。上がってこなかった地域には、文化財関係の方からご提示いただき、いくつかのやり方を模索しながら実施していく必要があるのではないかと思う。

例えば、冬囲いの仕方についても紫雲寺地区と赤谷地区では違いが出てくるのではないかと考える。そういったものはとても大事な文化財かと思うが、当事者の方々からすれば毎年やっているのだから、特別なものではないと考えていらっしゃるのではないか。「冬囲いの仕方はどうしているの。」と聞けば、情報が得やすいのではないかと思う。

文化庁では「食文化」についても取り上げている。例えば「漬物はどんな風に漬けているの。」と聞いた際に、地域によって違いが出れば、その漬け方はその地域特別のものといったデータを得ることができると思う。そうした時に、これは新発田特有の文化として計画に盛り込むこともできるのではないか。

そうしたことから、聞き方一つで簡単に出てくるものもたくさんあるのではないかと感じる。

● 文化財の線引きについては大変難しい課題であると思う。指定文化財については今まで指定したものに明確なリストが作成されている。報告の中に今までの把握調査というのが記載されていて、今までどういったものが調査されてきていて、その数についても分かるようになってきているかと思う。今回の案文では、それが分からないが、更にその外側に把握もされていないものが膨大にあり、文化庁が求めているものは、従来の文化財の概念を超えるというように定められているので、限りなく広がることは確かであるが、事務局として、あるいは新発田市として従来のもので足りないものは何か。ある程度考え方のようなものがあって、意見をいただくというのが流れかと思う。

順番としては、ワークショップでそういったことを聞いた上で、事務局としての考えやこれまでの経緯を説明しながら、そこで色んなご意見をいただくのが生産的ではないかと思う。やり方についても、非常に多くの課題があるかと思う。

アンケートの結果についても、祭りが多い印象を受けたが、それは記入例として祭りを取り上げているので、類似したものが上がってきていると感じる。一般の方々が何を文化財として捉えているかというサンプルにはなると思うので、それをしっかりと受け止めて

やるべきかと思う。

また、事務局からお聴きした自治会長の方々にどう返していくかも、一方通行になるリスクを避ける上で、考える必要があると思う。

もう一点、ワークショップについてであるが、当初の計画では5回実施するということがスケジュールを組んでいるかと思う。しかし、令和2年度に実施できておらず、令和3年度では2回を想定していると資料では示している。2回では地区が非常に偏って、万遍なく聞くことができないように感じる。この辺りはどう考えているのか。

→ワークショップについてであるが、以前の案で年5回としたのは、旧市町村の単位で旧新発田市、旧紫雲寺町、旧豊浦町、旧加治川村で各1回ずつと、全体でプラス1回と考えていた。しかし、人口や面積の問題もあるので、均一に実施することが難しいと考え、特定の地域に偏らないように配慮した上で、多くの地域の方々にお集りいただきたいという考えの上で、今年度は年2回と再設定をした。

ただ、回数こそ減らしたが、充実した内容で実施していきたいと考えており、単純に2/5になったとは考えてはいない。先ほどお話しにあったとおり、地域の方々が文化財をどう捉えているのかについては、議題の一つかと思っている。その点も加味しながら、ワークショップの中で何をするのか検討していきたいと考えている。

● 当初通り5回やるのは難しいにしても、面積が広い新発田市ということ踏まえると、2回実施しただけで市民の方々の声を集約するのは難しいと感じる。やり方を工夫すると言っても限度があるかと思う。この事業の説明や、様々な取り組みを行えば成果といったものがでてくるかと思うので、是非回数を重ねていくべきではないかを感じる。

また、ワークショップという言葉だけでは、具体的に何をするのか分からない部分が多いと思う。具体的に何をするのか考えて、伝えていただきたい。

もう一点としては、指定文化財と把握した文化財がどういったものがあるか、従来はどういったものが文化財として捉えられているのかといった概要を新発田市の方が市民の方々に提示して、もう少し答えやすいような工夫をしていただく必要があるかと思う。これは、行政側が具体的にどのように考えているかを提示することにも繋がるのではないかと思う。

→いただいたお話しは持ち帰り、十分検討させていただきたい。

● あまりにも手を広げ過ぎた計画というのが印象にある。もう少しかいつまんでこの部分、この部分というようなやり方が分かりやすいのではないか。あるいは部会などを作って、専門的に調査を行った方がまとまった答えが出やすいと思うがいかがか。

→個別の分類としては、先ほど会長より例示があったように、例えば「漬物」について

は話しも弾むかと思うし、文化財というものに親しみを持っていただきやすいのではないかと思う。

ただ、なかなかその項目を拾うだけでも、数千から数万になっていくことも考えられる。これからの第3章、第4章で文化財の全体的な考え方についてご協議いただくことになっているので、その時に再度、煮詰めていくことができればと思う。

● 先ほどのアンケートの調査についてであるが、場所が分からないというご意見が出てきていた。例えば場所を地図に落としていくと、どこにどういう文化財が存在して、どう分布しているのか判別しやすいのかと思う。できれば、リストだけではなく、地図も用意した方が資料としても分かりやすいのではないかと思う。

また、ワークショップについて、「あなたの考える新発田らしさ」とあるが、非常に抽象的に感じる。地域によって「新発田らしさ」という言葉で感じる印象は違うと思う。それを文化財と絡めてしまえばどう捉えて良いか分からなくなってしまうと思うので、もう少し具体的な文言でやられた方が分かりやすいのではないか。

→まず、調査の結果であるが、今ほどいただいたご意見を踏まえて、次回の協議会までに内容を充実させて、分かりやすいものにしていきたい。

また、ワークショップについても、お集りいただいた方々に唐突に「新発田らしさ」を聞いても、何のことかご理解いただくのは難しいと思うので、前半の方で計画の概要をご説明した上で、「新発田らしさ」についてご意見をいただければと、現段階では想定している。

● 会長 市の広報など、様々なメディアを用いた中で、ワークショップが繋がっていく形がよろしいかと思っている。

(3) 文化財保存活用地域計画（案）について

資料4で色のついた目次案がある。青色の部分がすでに提示させていただいたもの、緑色の部分が概要など一部を提示させていただいたもので、赤色が未提示のものとして示している。

第2章については、これまで実施した文化財の把握調査、指定文化財等の状況、主な調査研究の成果についてお示しをしている。今後の総合把握調査の方針については、これからご協議いただいた結果を踏まえて、提示させていただければと思う。

また、第2章のところで、何が把握されていないのか、どのように把握していくのかといったところが未提示となっており、今後提示していきたいと考えている。

第3章以降について、お手元に配布した文化庁のパンフレットの04という頁を開いていただくと文化財を総合的・立体的に把握する方法が提示されている。歴史文化、関連文化財群、文化財保存活用区域の考え方となっている。これを設定することで、各自治体の

文化財を総合的・立体的に把握することができるという考え方である。

右側の頁には「歴史文化とは」という文章があり、歴史文化の特徴の説明となっている。ここでは一例として7つの歴史文化の特徴が設定されている。その右側に関連文化財群があり、そこには「指定・未指定にかかわらず、多種多様な有形・無形の文化財を歴史文化にもとづく関連性・テーマ・ストーリーにおいて一定のまとまりとして捉えたもの。」ということである。更に、下に文化財保存活用区域というものもある。パンフレットでは保存活用区域例として設定されている。これらを設定することによって、それぞれの自治体で総合的・立体的に把握することができることになることから、これを提示することによって、新発田市の文化財を総合的・立体的に把握できると考えている。

資料5では、新発田市の歴史文化の特徴の概要を設定させていただいている。総論の他、6項目ある。総論については、第3章の方で提示をしている。6項目については、今後協議が進んでいく中で更に細かく提示したい。

また、それぞれの歴史文化の特徴に対する関連文化財群については、Ⅰ－Ⅰ、Ⅱ－Ⅰ、Ⅱ－Ⅱなどと設定している。この一連の部分が文化財保存活用計画を策定するにあたっての中心的な位置付けとなり、ここを先に決めておくことで効率よく策定していくことが可能になると考え提示した。

先般、資料を配布させていただいたあとに、文化庁よりヒアリングという形で、進捗状況や内容についてお話しをする機会があった。その結果についても、打ち合わせ報告書という形で配布している。全体的には良いということではあったが、様々な部分でご指摘いただいた点を記載している。

このような形で、骨格にあたる第3章の概要と、第4章の関連文化財群を提示したが、本日の協議いただき、文化庁のアドバイスや皆様から頂戴したご意見を踏まえ、改良を重ね、再度皆様に修正したものをご提示していきたいと考えている。

上記に関する意見、質疑応答（委員の質疑、意見は「●」で、回答は「→」で示す。）

● 会長 議論のポイントとしては二点あるかと思う。一つ目はこれまで皆様にご協議いただいた序章、第1、2章の確認がこれにあたる。二つ目は第3、4章に関すること（資料5、6）になるかを感じる。特に第3、4章では新発田市の文化財、関連文化財の特徴がまとめられていて、それが新発田の特徴として表れているか、更にそれを軸として、保存・活用に繋げていくことができるかを考えていくことになると思う。

● 本日の資料がもっと早く出ているならば自治会長の方々も分かりやすかったのではないかと感じる。また、資料4に現在の指定文化財のリストも載っているので、先ほど別の委員からもあったように、こういった資料を出すことによって、議題が明確化されるのではないかと感じる。

二点目としては、本計画は『新発田市まちづくり総合計画』の中ではどのように位置づ

けとなっているか、ご教示いただきたい。

→まず、文化庁のパンフレットにつきましては、ごく最近にできたものであり、残念ながら自治会長等に資料を配布するタイミングに間に合わず、申し訳なかったと感じている。

二点目の、新発田市全体の計画のなかでの位置付けですが、新発田市の中ではまちづくり総合計画が最上位に位置している。その下に並ぶものの一つとして、本計画が存在するということになる。

● 先ほど庁内でワーキンググループを組織し協議するという話があったが、最終的には国の予算をいただいたり、どういった部分を重点的に行うかといった点については、予め庁内の中で決めておいた上で計画づくりをしてほしいと考えている。

→ご指摘の通りと考えている。

● 新発田市まちづくり総合計画の下にある連携計画の中に観光振興基本計画がある。3年ほど怠ってリニューアルしていないという実態がある。これは幸いだと思っている。観光を視点に取り入れるということは、今までの文化庁ではあまり聞いたことはなかったが、折角の機会であるので、観光・文化財どちらからの視点でも読み取っていけるスタイルのものを作っていただければと思う。

→正にその通りであると受け止めている。また、今後計画がどうあるべきかについては、十分に話し合いたいと考えている。

● 会長 今回のテーマは文化財の保存と活用になる。その辺りについては綿密な連携が必要となるように感じる。

● 前回から改訂した部分と、付け加えた部分があり、一定の進歩があったことは良かったと感じている。

まず、先ほどの関係する計画についてですが、いくつかお願いしたいことがある。この関係図についてはいつ時点のものかを明記してほしい。他に申し上げると、担当部署はどこか、どういった事業を実現あるいは、実施中であるかを図にして表してほしい。先ほどからアンケート結果で、どこから回答があるのか、あるいはないのか分かり難いというご意見があったが、実際にどこで何をされているのか分からなければ、意見の言いようがないという実情がある。図をもう少し充実させて、会議で共通認識が持てるような資料作りを願いたい。

これに関連して、これまでの調査で何が分かったのかという部分も付け加えた方が良い

と思う。計画資料の30頁に調査の種類については書いてあるが、具体的に何が把握されたのかが現時点では分かり難く思える。また、33頁の第3節主な調査研究の成果があり、ここでどのような報告書が出ているかが記載されている、成果というのは調査で何が分かったか、どういうものが候補となるといったことをあげてもらわなければ、恐らく今後の把握調査の方針というものが出てこなくなってしまうのではないかと感じる。項目を設置すれば、それに課題が生まれるであろうから、もう一步踏み込んだ記述にしてもらいたいと思う。

もう一点としては、第3章の新発田市の歴史文化の特徴の部分である。資料5のIからVIまでを設定し、その前文として記述しているのだと認識している。この第3章第1節では、テーマのⅢ-2を重点的に執筆している印象がある。全体を貫く柱ではなく、特定の事に入り込んでいるきらいがあるように思う。文化庁のパンフレットを見ると時系列で分けるような形になっているが、それができる部分とできない部分はあっても良いかと思う。

個別の話題になるが、ポイントの一つとしては、「新発田市の地形」があがってくると思う。山、平野、日本一の巨大な砂丘列と、そのために広大な後背湿地が形成されている。それが、近世・近代で新田開発が行われたという歴史があり、こういった文化を形成した歴史・地形というのは大変重要なものであると認識している。先ほど会長がおっしゃられた浜と山の違いといった部分についても、そういったところから出てくるものであると考えている。市域がほぼ新潟平野に収まっている場所と、そうでない場所もある。新発田の場合は後者にあたるので、地形分布や地形環境の中を加治川が貫いているというのが、個人的な新発田のイメージとなっている。

また、もう一つとしては、越後の文化圏というのは丁度、北と南の接点にあたる位置にあると考えている。それが本文中にもあがっている、縄文土器や弥生土器で北と南、西と東の要素を取り入れている特徴を示しているかと思う。

歴史的特徴からもあげると、本文中であげている近世・近代の治水と新田開発は確かに大きな柱になると思う。それは地形を基盤としてできているので、そういった繋がりが書き方としてあるのかなと思う。近世としては、新潟県を代表する城郭・藩と、それに付随する城下町というのは、新発田市を形成する歴史文化の核となる部分が大きくあるので、そういったものがあってほしいと思う。

その前の時代についても、中世のことを考えると、歴史的には揚北衆という国人衆がいて、彼らは越後の中でも強力な勢力であったといえる。そういったことから、中世で激しい攻防があったということも柱の一つになるのではないかと思う。それが良いか悪いかは分からないが、書き方の一つと考えている。

また、時代ごとに並べていくことも方法の一つであるが、全体を貫く地形環境や文化圏というものがあって、その上に歴史的な要素を掲げるのであれば、近代のものや民俗といったものを挙げるができるのかもしれない。

→文化庁が示した雛型だと、総論的な記述がないものとなっている。文化庁の例では時代区分で区切った特徴と、時代区分以外のものという形になっている。それはある意味やむを得ないものと認識している。どうしても何かを歴史文化の特徴としてどこかに入れ込もうとすると、入れる先としてどこかの時代のはなしとして時代区分を設定しておくことが必要と思う。

35 頁以下で総論的なものを示した。この中で縄文から現代まで貫ける大きな柱を取り出せないものかと考えてはいるが、なかなか難しいのが現状である。しかし、全体を貫くまではいなくても、新発田を考える上で、一つの柱として提示をさせてもらった。

また、地形という意味では、前回委員からご教示いただいた砂丘列について比較の見やすい形で提示させていただいた。これは新発田を考える上で一つの大きな要素ということもあり掲載した。

歴史文化の特徴の6つの柱も、いただいた指摘も含め、リファインできる部分は改良を重ねていきたいと思っている。第3章の全体を貫く部分という点については、他の部分を全く入れないという訳ではなく、例えば、縄文時代や弥生時代の話しもあるのも良いものかと思うが、第1章の新発田市の概要のところ、新発田の歴史を述べているところで、また一から歴史をおさらいするのも難しいと思い、これで代表させてもらった。

● 副会長 会議が多岐に渡っているので、どこに絞ればよいか難しいところではあるが、三点ほど述べたい。

最近、杉山巖先生という学者の方が、『蒲原』という新潟県の雑誌で、五十公野にある「古四王神社の文化財保護」という論文を執筆されていた。ご覧になっていただくと分かるが、上杉景勝が新発田城と古四王神社を荒らして、四天王像のいくつかを持っていったが、明治時代の廃仏毀釈の折にある役所の職員が保護して現在まで残っている、という主旨の論文だったかと思う。大変新潟県の文化財行政を褒め称えている格好のものとなっているので、ご紹介したいと思う。

次に、第1章のことは既に終わっているが、第3節の新発田の歴史を述べている部分について、皆様のご意見もあり、大変スムーズに読めるようになったのかと思う。例えば、南北朝時代の近江権守の登場や、近代の明治以降の歴史も大変コンパクトによく書かれていて、読みやすくなっているように感じる。

ただ欲を言えば、時代区分について一つご意見申し上げたい。例えば、中世という言葉を使っているが、今の学説では後三条天皇の時代というものや、守護・地頭の置かれた時代からという主張もある。ただ、「中世とは何か」という定義もあり、中世はどこから始めるか、近世は、戦国時代はといった各時代区分の難しさがあるが、これは新潟県が考える歴史区分『新潟県のあゆみ』に倣う形がよろしいのではないかと思う。

例えば、守護大名が減んで戦国大名が誕生していく時代を戦国時代という訳ではあるが、新潟県の場合は長森原の戦いで管領の上杉顕定が、長尾為景と戦い敗死した時が始まりだと思う。いずれにしても、新発田市の文化財保存活用計画の時代区分は、『新潟県の

あゆみ』に準拠したという意味の言葉を付け加えておいた方が良いと思う。

細かい部分を申し上げれば、括弧の使い方など細かい部分で工夫がいくつもあるように思える。後日、またそういった部分は事務局の方に送るので、個人的な意見として参考にしてもらえればと思う。

最後に、文化財の調査についてであるが、私の考える新発田としては、旧新発田地域からはじまって、沖積平野の方に広がったという風に考えている。こういう考えからいくと、山間の集落や、谷、扇状地を利用した水田などをはじめりとしていると思う。これは人骨などの出土状況などからも分かると思う。

また、文化行政課の方でやってきた戦国時代の城館の発掘や、今はどのような形になっているか分からないが、フルーツ街道の方でも人骨が出ていたが、例えば、それと昔の城館とを結びつけた文化財の発掘調査なども案としてあるかと思う。

他にも、五十公野の町、三日市の町、旧豊浦町の荒橋小学校の荒橋町といった三つの町が存在していて、現在でも真っ直ぐ街道が延びている。これはどなたかが調査している。名前は失念致したが、大学生のグループだったかもしれない。こういったものを文化財として維持することは難しいと思うが、記録していくことはできると思う。

→貴重なご意見をいただきありがとうございます。参考にさせていただければと思う。

● 会長 今の委員や副会長のご意見については、資料5の方に何らかの形で取り入れる何かしらの方向性はあるか。資料5の場合は、IからIVまでが基本的に歴史ということになっていて、先ほどのお話しにあったものについては、V-1のところ「山、川、潟、里、海」、III-5に「街道」といったキーワードで表している。例えばII-2の「信仰」というキーワードは全体を貫いている訳であるが、中世の中に閉じ込めるという形で、逆に浮かび上がらせることができるのではないのかなとも感じている。こういった枠組みで考えておられたと思うが、先ほどのご意見を参考にしつつ、新発田の特徴をあげるような形でもし改良できる部分があれば、進めていっていただければと思う。」

● 本日は各地域から出てきた資料ということで拝見していた。しかし、まだ地域に埋もれた専門的な部分の調査をしている人はたくさんいらっしゃるので、そういった方々を時間の制約がある中ではあるが、見つける努力をしていった方が良いと思う。

もう一点としては、『新発田郷土誌』がちょうど今年で50周年を迎える。その中で、各個人が行った調査成果を現時点で49号発行している訳である。これも内容の富んだものも掲載されている。その発端は、『新発田市史』となる。しかし、見切り発車でとりあえず発行したという形になっている。私の手元にもあるが、まだその中で取り上げられていないものも出てきている。先ほどの郷土研究会の中でも専門分野を取り上げて、掲載されているので、そういったものを網羅しながら行っていった方が良い。

また、我々委員の中でも、『新発田市史』をさっとでも良いので目を通していただくのも一つの方法ではないかと思っている。郷土研究会の意義としては、『新発田市史』を補完する意味で、調査研究をやろうというのが大事な考え方であり、現在でもそれを継続して行っている。その辺りもご参考にしてもらえればと思う。

→ご意見ありがたい。地域の自治会の方々に文書を配布して文化財を紹介いただくというのも難しいこともあり、ホームページや広報紙の方にも掲載した。何かありましたら文化財をご紹介くださいと呼びかけることは継続して行わなければいけないと考えている。

郷土研究会の皆さまからは、大変示唆を受けている。教えていただくものがあれば、ぜひ教えていただきたいと思っている。

未把握の文化財については、本計画は令和4年度までの策定期間である。その策定期間までに全てを把握しているという訳ではなく、把握活動を続けていくということを計画の中に盛り込むということであり、把握できるものを把握した上で、今後も調査は続けていくという趣旨とご理解いただければと思う。

● 会長 先ほどのワークショップと共通しているが、地域の郷土研究を続けていらっしゃる研究者の方々は、市民の方々と市との繋がりを持たせることができる役割を担っていると思う。事務局だけではそれは到底不可能かと思う。その辺りはワークショップと関係しながら進めていただければと思う。

いただいた意見の全てを実行するのは難しいと思うが、市民の方々の声を拾い上げて、連携をしながら進めていただければと思っている。

協議の方はこれで閉めさせてもらう。

以後、事務局による進行。

5. その他

● 会議資料のお願いがある。前回の議事録は印刷し、会議資料に含めてほしい。委員の方々の名簿など基本的資料も同様にしていただきたい。

来年以降もあと2年続く訳ではあり、事務局の体制についても心配なところもある。計画の最後の部分で推進体制を記載する必要があるが、文化行政課と市の担当部局の連携など明記する必要がある訳で、これから後の2年間、体制を作る期間であると思うので、様々な業務でお忙しいかと思うが、文化行政課の中で絶対に取り組んでいくべきものという位置付けであれば、もっと余力のある体制を構築できるのではないかと思う。

本計画は少なくとも後10年に渡り実施計画などを作っていくことになるので、今後の計画の中において、基礎となるものを現在作っているわけであり、全てを完璧にせずとも、今後取りうる人的体制・庁内連携・地元の方々との連携を図っていただければ

と思う。

● 会長 例えば、ここに市の観光課の方がいれば、今後の話し合いもスムーズになるかと思う。全員という訳でなくとも、核となる方に委員の中に連なっていたり、あるいは傍聴席の方でご参加いただいたりするの難しいのかなと思うがいかがか。毎回でなくても参加いただければありがたいと思った。

● 今のお話しを受けて、議題によってそういった専門家の方々をオブザーバー的な立ち位置でご参加いただくことはいかがか。

→委員として観光課等に入ってもらうのは難しいと考えるが、観光課や商工課の職員に聞いておいてもらいたいという思いもある。検討をさせていただきたい。

6. 閉会